1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

潮騒ジョブトレーニングセンター 9周年フォーラム

エイサー演舞、潮騒ファイザープロジェクト報告
和太鼓演奏の三部構成

12月7日（日） 13:00 - 17:00

入場無料

会場：鹿嶋勤労文化会館大ホール
鹿嶋市大字宮中 325-1　TEL:0299-83-5911

主催：NPO法人 潮騒ジョブトレーニングセンター（薬物・アルコール・ギャンブル依存症民間回復施設）
茨城県鹿嶋市宮津台 210-10 TEL:0299-77-9099

後援：鹿島灘太鼓、茨城県精神保健福祉センター、潮来保健所、水戸保護観察所、茨城新聞社、鹿島地区更正保護女性会、鹿嶋市、ハローワーク常陸鹿島、いばらき就職支援センター鹿行地区センター、鹿島市社会福祉協議会、NHK 水戸放送局、FM かしま（順不同、予定）

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）　1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 10 月 21 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4949 号

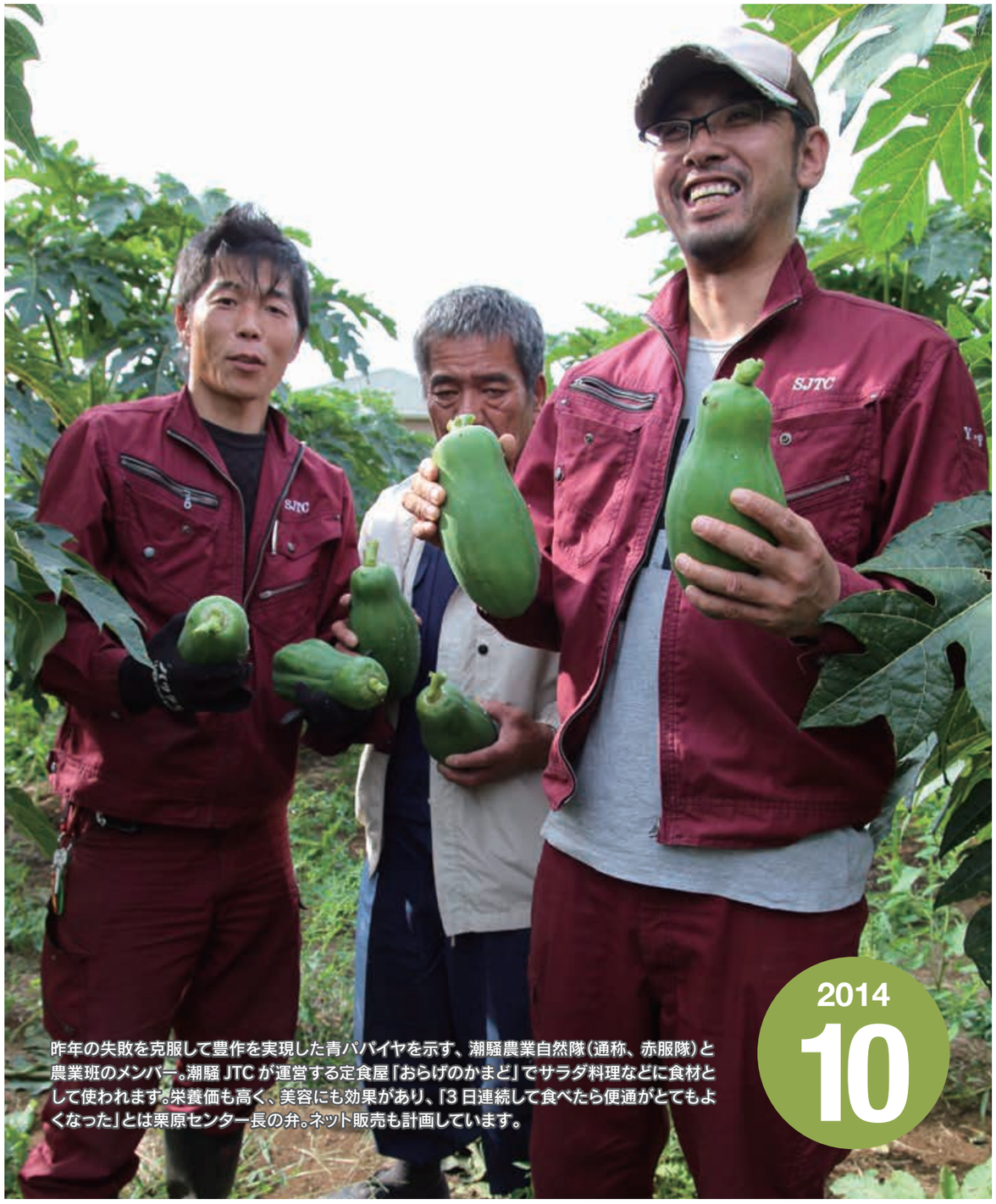
1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます！



昨年の失敗を克服して豊作を実現した青パパイヤを示す、潮騒農業自然隊（通称、赤服隊）と農業班のメンバー。潮騒 JTC が運営する定食屋「おらげのかまど」でサラダ料理などに食材として使われます。栄養価も高く、美容にも効果があり、「3 日連続して食べたら便通がとてもよくなった」とは栗原センター長の弁。ネット販売も計画しています。

2014
10

文豪・吉川英治の「我以外皆我師也」を肝に銘じて

秋たけなわです。秋は食欲（味覚）、行楽、スポーツ、読書、音楽… 何をするにもいい季節です。潮騒 JTCでは地元の秋季イベントへの参加に加え、このところ高齢者福祉施設などから鹿嶋エイサー（潮騒琉球太鼓）への出演要請が増えています。メンバーは自分の回復に努めながらも、ありがたいオファーに応えようと忙しい日々です。つたない技量でも、こうした形で地元に貢献できることはアディクト（依存症者）には大きな喜びであり、依存症という厄介な病気で失った自信や信頼、前向きなエネルギーを取り戻すことにつながっています。もちろん施設の活性化にも良い影響を与えています。

とはいえ私たちの活動の基本は、地道な日々の回復プログラムの取り組みです。エイサーや鹿島灘太鼓は施設運営の重要な要素になりつつありますが、メインの活動ではありません。ましてやイベント興行屋ではありませんから、回復を補佐する活動としての自覚を忘れてはならないと考えます。私たちアディクトは世間から疎まれ白眼視されたことはあれ、褒められたり、必要性を認められたりした経験はほとんどありません。ですから、今回のように評価されることには慣れていません。過剰に受け止め、自分たちの力を過信して、つい有頂天になりがちです。絶えず自戒をもって臨まないと足元をすくわれかねません。

このことは施設運営の責任者である私自身にも当てはまります。これまで私は「一人でも多くの仲間を助けたい」との熱い思いから、全力を傾けて必要な施設を整備してきました。そのため他のダルクに比べると、かなり早いスピードで短期間に関連施設を増やす結果となりました。しかし、私は決して施設拡大を目的化してきたのではありません。多少は無理してきたという反省はありますが、この取り組みは私にとっては自分の運命に沿った自然な流れなのです。言葉で説明するのは難しいのですが、私には先を読むビジョンや計画性はほどんどなく、私たちが信じるハイヤーパワーの命じるままに従っているだけなのです。

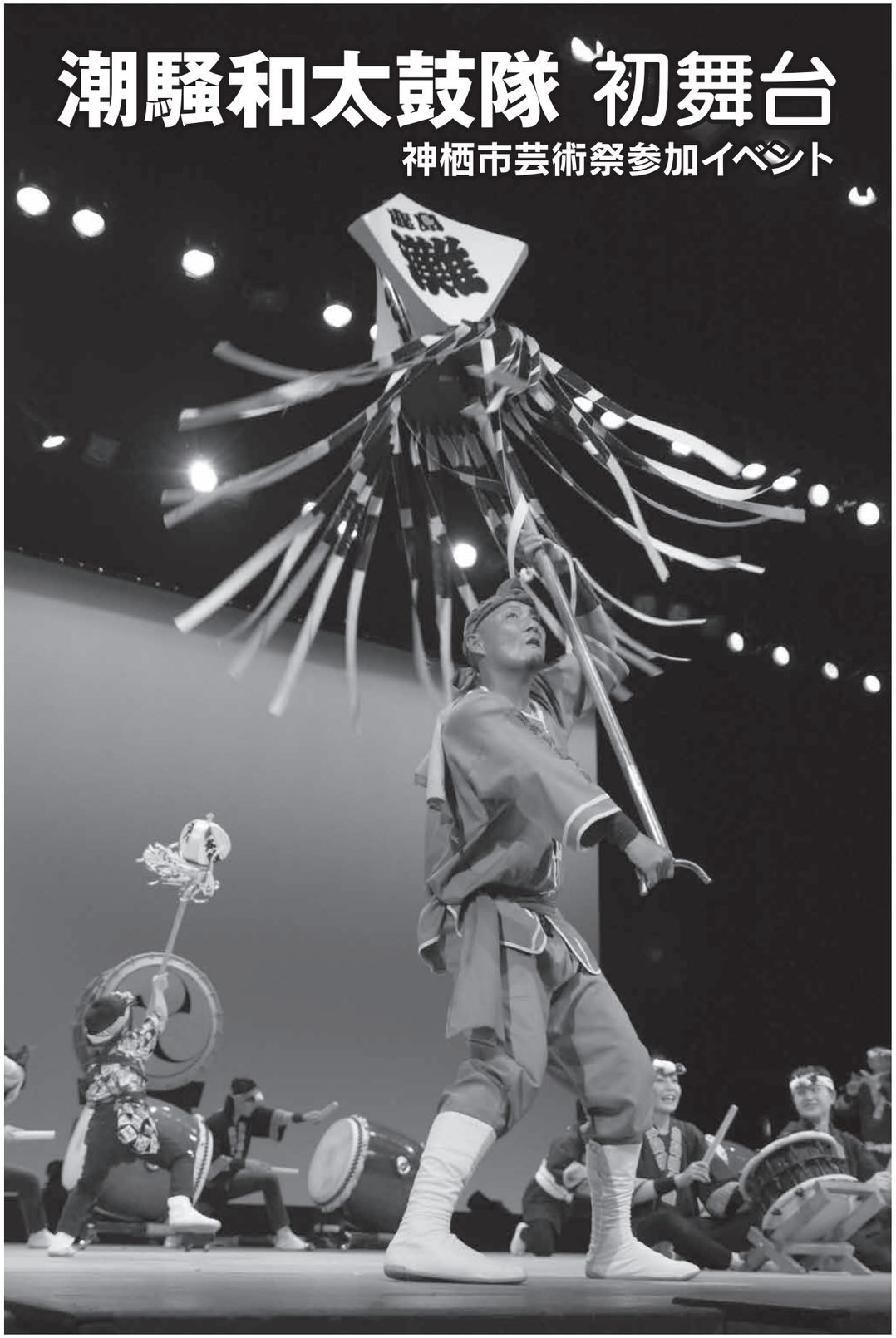
でも、人間ですから、ましてや世間から長くはじかれてきたマイナス人生でしたから、時おり「自分には他の人よりもパワーがあるんだ」と過信する悪魔のささやきが聞こえる場面があります。しかし、思い上がりは禁物です。私たちアディクトは、あくまで「世間に許されている」「地域で生かされている」という自戒と謙虚な姿勢を忘れてはならないと考えます。その意味で私は、大好きな文豪・吉川英治の人生哲学「我れ以外は皆我が師なり」（自分以外の人はすべて自分の先生である。自分を育ててくれたのは、自分と関わったすべての人だという教え）を肝に銘じることにしています。まだクリーン11年目で回復年齢としては世間知らずの子供と同じ存在の私には、この教えをモットーに残りの時間を潮騒 JTCの運営に全力疾走し、そのまま倒れるまで走り続ける現役人生でありたいと願っています。

（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

潮騒和太鼓隊 初舞台

神栖市芸術祭参加イベント



潮騒太鼓の指導者、島田正之さんが会長を務める神栖市和太鼓連盟の第3回発表会が10月26日午後、鹿嶋市と隣り合う神栖市の神栖市文化センターで開かれました。平成26年度神栖市芸術祭和太鼓発表会の参加事業で、鹿島灘太鼓と波崎はやうち太鼓保存会の2団体が出演し、幅広い演目で会場に和太鼓の魅力を響かせました。連盟の歴史はまだ浅いですが、郷土の伝統的な芸能であり貴重な文化の和太鼓演奏を保存、継承するために島田会長をリーダーに頑張っています。島田会長から直接に手ほどきを受けて8か月余り、この日の舞台は潮騒和太鼓隊のデビュー発表会でもありました。

既に地元から出演依頼が多くなっている先発の潮騒エイサー隊（鹿島琉球太鼓隊）とのコラボレーションもあり、普段は見られない珍しい舞台の実現で会場を沸かせました。終了後には新米などが当たる大抽選会もあり、潮騒農場で取れた新鮮野菜や珍しい青パパイヤ、豊作だった潮騒水田のコシヒカリも提供され、参加者に喜ばれました。

栗原豊センター長は「初舞台にしてはまずまずの出来だった。潮騒太鼓隊メンバーにとっては12月の潮騒フォーラムに向けて大きな自信になったと思う。潮騒も基本は通過施設なので、入寮者の入れ替わりが激しい。それだけにメンバーの固定化が難しく、勢い意欲あるスタッフが中心となって引っ張る形となっている。スタッフの負担軽減を図りながら、施設の取り組みとしてもっと定着させたい。さらに地道な練習に励み、技量を高めてフォーラムでも感動できる舞台を創り上げたい」と決意を述べました。

デビューの舞台に自分も感動、次に繋がる大きな一歩に

潮騒和太鼓隊の初舞台となる発表会（平成26年度神栖市芸術祭参加イベント）がありました。今年の2月に太鼓隊を立ち上げて和太鼓のリーダーとして約8カ月間、汗水を流して鹿島灘太鼓主宰者の島田先生御夫妻をはじめ、若い灘太鼓の仲間達に伍して頑張って来ました。灘の若者たちもかつては不良の道を歩んで来た者が多く、やんちゃだった自分の青春時代とダブります。クスリとアルコールに負け続けてきた自分たちの人生に今、太鼓を通して大きな希望の光が差し込んでいます。

この間の厳しい稽古は、今まで歩んで来た道のりの色々な事がよみがえり、熱い思いが込み上げる日々でした。でも、神栖でのデビュー発表会でそうした苦労が報われました。この日は潮騒エイサー隊と和太鼓隊が一つになり、より一体感が生まれました。無我夢中の一日でしたが、とても清々しく、自分がヤク中だった事も忘れて力を出しきることができました。私たちの初舞台を支えてくれた関係者の皆さんにとても感謝しています。この日を与えて頂いた事も感謝です。何よりも潮騒の仲間に感謝です！

これからも、薬物やアルコール、ギャンブルではなく太鼓に依存して、太鼓演奏に生きがいを求めます。そして大切な仲間達と共に命ある限り生きて行きたいです。終了後の反省会では、こらえていた熱い思いが溢れ出てしまい、涙を流してしまいました。改めて、これらの仲間達と一つになれた事に感動と感謝です。次に繋がる大きな一歩になったと思います。（カイジ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

潮騒太鼓隊の合同部隊が初練習

～島田さん夫妻の指導を得て合宿～

12月の潮騒JTC9周年フォーラムに向けた潮騒太鼓隊の本格的な合同舞台練習がこのほど、行方市の公共施設レイクエコーで行われました。潮騒の和太鼓を指導してくれている鹿島灘太鼓の創始者、島田正之さん御夫妻の熱く厳しい指導によって濃密な練習ができました。フォーラムで披露する曲の演奏はもちろん、実際に舞台上で動きの確認も練習をしました。初めは、みんな何をどうやったら良いか解らない状態でしたが、次第に動きを理解し、ある程度の流れの確認ができたようです。太鼓隊メンバーは普段は施設業務に忙しく、集中した練習時間の確保が難しい環境にあるだけに合同練習に真剣に取り組みました。以下は、女性メンバー2人の感想です。

練習はきつかったけれど初めての和太鼓合宿に成果

私は今、施設のプログラムに組まれている和太鼓（鹿島灘太鼓）をやっています。こんな体験をしたのは生まれて初めてで、まさか自分が和太鼓をやるようになるなんて思ってもいませんでした。先日の和太鼓合宿も初めての経験で、練習はとても大変でしたけど楽しかったです。夜には島田先生ご夫妻の部屋でお話が出来たこともうれしかったです。手が硬直していて、なかなか思うようにいかないけれど、和太鼓はやり遂げていきたいです。何かに真剣に取り込んでいくということが初めてなので、諦めないでやっていきたいと思います。今は施設生活の中で唯一、和太鼓が楽しみです。一つのことを仲間と一緒に一つになってやるということの素晴らしさに感動しています。これからも頑張ります。（いるか）

島田先生御夫妻や若い太鼓メンバーから元気もらう

先頃3日間の和太鼓合宿に参加しました。きれいな北浦や豊かな自然に囲まれた心身共にリラックスできる場所での合宿でした。練習はとても充実した内容で、自分のレベルアップにも繋がりましたし、これからの課題も見えてきました。夜は鹿島灘太鼓の若い子達とお話をして色々と共感出来る話や、若い子ならではの楽しいトークを聞かせてもらい、たくさん元気をいただきました。とても楽しかったです。また島田正之先生、奥様の京子先生ともお話ができる時間もありました。先生方からは、いつも勉強になるお話が聞けてとても嬉しいです。

合宿最終日には、鹿嶋で行われた新米祭りで和太鼓の発表をするということで、和太鼓の初めての舞台となりました。野外で風も強く、砂ぼこりの上がる中でしたが、初めて人前で太鼓を披露させていただきました。人前に立つことが苦手な私ですが、楽しみながら演奏することが出来ました。仲間と一つの目標に向かって何かを成し遂げるとこはすごく楽しいなと感じました。これからは、次の発表会と潮騒フォーラムに向けて仲間と一致団結して努力していきたいと思います。指導して下さった島田先生御夫妻、灘太鼓メンバーの皆さん、3日間ありがとうございました。（あやめ）

潮騒ファイザープロジェクト **就労支援実践講座**

老後こそ自分に正直に生きよう

孤高の書家、北村馬骨さんに“老いの流儀”を学ぶ

▲孤高の書家 北村馬骨さん

人生諦めるにはまだ早い—。潮騒ファイザープロジェクトで取り組む第6回就労支援講座が9月10日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケア施設で開かれました。講師を務めたのは筑波山麓に住む孤高の書家、北村馬骨さん（86）でした。「役立たずの老後をどう生きるか」をテーマに熱弁を振るい、60歳以上の入寮者が増えている潮騒の高齢者ケアの在り方や方向性にヒントを与えてくれました。

世の中にはお金よりも大切なものがある

馬骨さんは東京都出身。早稲田大学で美術を学び、戦後の混乱期に様々な職業を体験しながら演劇や美術、工芸などで豊富な人脈を形成しました。編集プロダクションの走りとして新聞や雑誌、CMなどで活躍していましたが、不思議な運命に導かれるように40歳代で書に開眼した遅咲きの書道家です。含蓄ある破天荒な作品で根強いファンを持ちます。1993年から筑波山麓で気ままな一人暮らしをしながら各地で個展を開き、今も旺盛な創作意欲を失わない現役の書家です。

馬骨さんは一度も書道家の門を叩いたことはなく、芸術家の友人たちから刺激を受け、「自分も何かしたい」と子どものような自然さで書を描くようになったと言います。それだけに組織への帰属や管理を嫌う生来の独立派です。「身軽になって、自分のあるがままを、はらわたを書にぶつける」のが馬骨さんの書の神髄です。「人生は一度きり。みんな自分の人生を歩んでいるか。お金が邪魔をして精神の豊かさや自由を奪われていないか。世の中にはお金よりも大切なものがある。シンプルな発想で向き合えば人生はもっと楽になる」と独自の人生哲学を説きます。

適度な距離感で互いに依存し合える社会が健全

この日の講話で馬骨さんは、世間から疎まれ「どん底」を味わった依存症者の人生に共鳴し、「否定的な生き方の中にこそ人間の半面の真実が潜んでおり、学ぶべきものが多い」と話しました。人一倍悩み苦しんできた依存症者の人生経験はマイナスではなく、豊かな内面を形成する糧になることを示唆し、「回り道の人生は老後を豊かにする」と仲間たちに希望のエールを贈りました。その上で「役立たずの老後」の生き方について触れ、▼歳を取っても自分の命をあげてもいい人間に出会う▼少数でも話が合う仲間を持つ▼貧しくとも自分の道を歩む▼少しだけ世の中のために生きる▼老後の日々を楽しくゆったりと送る— をアドバイスしてくれました。

馬骨さんは「依存は必ずしも悪いことではない。人間も自然の一部であり、何かに依存しないと生きてはいけない。互いに適度な距離感で依存し合っていける社会が、むしろ健全。国や制度に依存するのもいいが、自立を目指すのなら、おおざっぱな関係の中で無理なく生きられるような訓練を施設の中でもした方がいい」と講話をまとめました。入寮者の皆さんから質問が出され、栗原センター長も「私たちの老後に多くのヒントを与えてくれました」と謝辞を述べました。

「最期は名もなき馬の骨として、道端で野垂れ死にしたい」—究極の自然死を理想とする馬骨さん。気骨あるダンディズムを感じさせる講演で刺激を与えてくれました。（み）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

潮騒農場直営店

おらげのかまど

潮騒定食「おらげのかまど」が11月11日に開店予定！

栗原センター長の悲願だった潮騒 JTC の飲食店事業である潮騒定食「おらげのかまど」が11月11日の開店予定となり、選任された入寮者メンバーを中心に急ピッチで準備作業が進んでいます。内外装工事はほとんど終わり、厨房機器設置も8～9割方設置済みで、食器類の買い出しや提供するメニューづくりに追われています。接客業務のスキル（接遇）などにも力を入れることになります。また、目玉となる青パパイヤ料理、潮騒農場で生産する冬野菜づくりの整合性なども検討していきます。ご期待ください！

かまど作業従事者のコメント

■タツヤ

店舗内の塗装作業などを手伝いました。センター長念願の店の開店に向け働き、よい汗をかきました。自分たちの生きがいにつながるよい店づくりを目指したいです。本来板前の資格を待っているので、完成後はここ「おらげのかまど」で料理人として腕を振るう予定です。地元の皆さんに笑顔で過ごして戴く場所を提供したいと思います。

■エビス

以前は大工職人として仕事をしてきましたが、依存症により社会では失敗の連続で上手に生きていくことがままなりませんでした。でも潮騒に繋がって「おらげのかまど」の大工担当になってからは、クリーンな生活が続いています。工事の出来栄えも立派なものになったと思います。共に働いた仲間に感謝しています。

■シュン

「おらげのかまど」、いいネーミングですね。これに相応しくレトロな日本風をイメージして外装を施工しました。潮騒は、就労支援が充実しており此の作業プログラムは、今後の社会復帰に大いに役立つものと期待されます。私は潮騒に繋がり10カ月のクリーンを迎えようとしています。過去の生き方を考えると、まさに奇跡！と言うほかありません。与えられる全てのものに感謝、仲間に感謝、何よりも環境に感謝です。

■テイジ

「おらげのかまど」の準備作業では、下支え役として裏方へ回り、主に清掃業務を担当しました。軽視されがちな仕事ですが、室内環境を綺麗にすることで仕事がはかどり、仲間も気持よく作業することができたと思っています。室内環境をクリーンするだけにとどまらず、自分自身の今後の生き方においてもクリーンを続けて行きます。（テイジ）

世田谷区民生・児童委員 60 人が研修来訪

～危険ドラックの実態や就労支援の難しさに理解深める

東京・世田谷区の民生委員・児童委員協議会(汐見敏治会長)の地区メンバーの皆さんが10月22、23の2日連続で潮騒JTCに視察研修で訪れ、潮騒農業を中心とした施設の活動に理解を深めてもらいました。委員の皆さんからは活発な質問があり、意義ある意見交換ができました。

世田谷区委員の視察研修は 2012 年 10 月に続く 2 回目。今回来訪されたのは砧と烏山地区の合計約60人で、全国のダルクの中でも潮騒JTCを研修先に選んで頂けたことは施設にとっても励みとなります。一行は1時間半程度の駆け足でしたが、潮騒が取り組む回復活動や就労支援の一端に触れ、依存症という病気の困難さも理解された様子でした。

研修は社会問題となっている危険ドラックの現状を知り、依存症者の社会復帰の実態に理解を深めることが目的でした。栗原センター長は危険ドラッグの実態に法規制が追い付かず、化学分析が未解明なままより強い毒性のある麻薬成分が混ぜられ、結果的に使用者が「人体実験台」にされている怖さを力説。「施設内でも危険ドラッグ依存者の“壊れ方”は半端なものではない。何としても食い止めたい」と訴えました。スタッフからも危険ドラッグ依存の具体的な様子が語られました。

後半では潮騒が取り組む就労支援の柱である農業について、パワーポイントを使って農業隊メンバーが説明しました。3 年間ファイザー製薬の助成を受けて取り組んだ独自のファイザープロジェクトの成果について触れ、「社会復帰は難しいとしても、高齢者や重複障害者、危険ドラックの仲間にも自然と直接触れ合う農業は好結果をもたらしている」と報告しました。

委員の皆さんからは「高齢者への対応はどうだったのか」「社会復帰の成果は？」「男女の比率は？」「生活保護受給者の割合は？」など予定時間を超える形で質問が出され、栗原センター長らが丁寧に答えました。最後に代表が「本当は潮騒のような回復施設がこの国からなくなるのが理想だが、逆に増えていることに社会の実態と薬物の怖さが見て取れる。皆さんの献身的な努力が社会の救いになっていることが分かった」と評価してくれました。（勝）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

持病の腰痛を忘れるエイサー演舞で達成感 ～依存症のイチです

～祖母のいる老人ホームで２度目の慰問活動

慰問活動を終えて入所者の皆さんと記念撮影する潮騒エイサー隊

平成26年９月19日から23日まで、入寮者有志が参加する潮騒太鼓隊の強化合宿があり、エイサー&和太鼓隊メンバーのみんなで太鼓練習に汗を流しました。その合宿には以前、私をエイサーの施設慰問に誘ってくれた仲間も参加していました。彼の勧めで私も以前にエイサーをやっていたので、今回の合宿練習によって、だいぶ太鼓演奏の感覚を取り戻すことができました。

その甲斐あって 10 月 18 日にはエイサー慰問に連れて行って貰うことができました。行く先は私の祖母が入所している水戸市の老人ホーム「しまナーシングホーム」でした。なので私は俄然、ヤル気を出していました。でも私には持病の腰痛（腰のヘルニヤの痛み）があり、当日もしっかり演舞できるか心配だったのです。そうした不安を抱えながら慰問の当日、演舞に先立ち入所しているお年寄りの方々にマイクで話し掛けると、本当にヤル気が出てきたのです。不思議な事に腰の痛みも忘れていました。当初予定では 1 曲のみの演舞だったのが、結局は 3 曲も叩いていました。私は演奏に参加していない時は、ずっと祖母の側に寄り添っていました。

今回のエイサー慰問は、私の中では大成功だったと思います。それもこれも周りの仲間の協力のおかげです。前回、祖母の所を訪れたのが今年の４月 17 日でしたから、ちょうど半年経っての慰問でした。今回の演舞は老人ホームの家族会のために、ホーム側から依頼されたとの事です。私は当初持病のヘルニヤの事もあり、辞退しようかとも思ったのですが、終わってみればやって良かったな、と自信と達成感を得ました。それに祖母と再び会うこともできて、正に一石二鳥でした。また機会があれば潮騒のエイサー隊を呼んでください。（イチ）

▲ イチさんとイチさんのおばあさん

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

受刑者からの手紙

びくびくせずに自由に街を歩きたい

一度も面識のない栗原さんに、突然のお手紙を差し上げます失礼をお許しください。地裁の公判予定表で薬物事犯者の私の名を知ったとのことですが、頂いたメッセージに「薬物をやめられなくなったのは、あなたの責任ではなく、依存症という病気の正体によってです」という指摘があり、とても嬉しくなりました。さらに「仲間の中でならやめていくこも可能だ」とも書かれてあり、救われる思いでした。

私は65歳で、これまでに服役経験が10回あります。今、拘置所では病舎に入院しています。食事も味のないものを食べております。都内で生活しているときには生活保護を受給していました。1回目はA区役所で、2回目はB区役所で毎月11万円をもらって部屋代と光熱費を引くと、残金8万円ほどで生活していました。そんな折、都内のターミナル駅近くの公園で友達と話をしていたら、急に刑事が寄ってきて「尿を出してくれ」と言われたので、「冗談じゃねえよ」と拒否しましたが、やはりダメでした。裁判官の許可書類を示され、強制的にさせられました。結果は言うまでもありません。逮捕され、現在につながっています。

もう私は２度と覚醒剤には手を出したくありません。街の中をびくびくして歩くのではなく、自由に楽しく散歩したいのです。栗原さん、刑務所暮らしはもうこりごりです。どうか力を貸してください。覚醒剤に手を染める人生から抜け出せない限り、刑務所との往復で人生が終わることは自明です。ですから私は薬物から手を切り、もう以前のびくびくした生活とはなんとしてもおさらばしたいのです。残りの人生を普通に生きたいのです。これ以上、社会や周りの人たちに迷惑を掛けたくはありません。（東京都　S・K）

残刑1カ月を無事に務め上げたい

いつもお便りを頂き、ありがとうございます。お忙しい中、本通信に綴られている栗原さんのお言葉を励みに、ここまで頑張ってくることができました。刑期も残すところ１カ月余りとなり、最後まで無事に務め上げたいと思います。せっかく栗原様に引受人となって頂きましたが、私の不徳の致すところで仮釈放は叶いませんでしたが、これからも宜しくお願い致します。

満期釈放となりますと、実生活を送るために新たな住居を用意したり、収入を得ることなど雑事に追われ、クスリを断つことだけに専念することがなかなか難しく、誘惑に耐えることができるか不安を抱えての新たな船出となります。まずは自分にできることを実践し、過去の交友関係に連絡などは一切しないで、栗原様の元へご連絡させて頂きたく思います。

今のところ伯父に迎えに来てもらい、役所などの手続きを済ませてから生活支援を受ける相談をしに住所地に戻り、その際に栗原様のお知恵を拝借できましたらと考えておりますので、なにとぞ宜しくご指導のほどをお願い致します。社会から離れて２年５カ月の時が経過したので、出たとこ勝負の感が否めませんが、それでも支え励まして頂いた皆様のご恩に報いる生き方をしたい、と切に願います。これまで家族や親類に掛け続けた迷惑をここで断ち切り、自立した生活を送ることが何よりも大切だと思います。断薬も含めいろいろとご相談させてください。

（福島県　H・R）

ダルクの力を借りないと覚醒剤はやめられない

ハガキありがとうございます。自分の方は現在転業になり、塀の外にある製材の仕事に就いております。大変ですが、楽しい仕事です。出所まで残刑あと５カ月を切っています。仮釈放をもらえても、今からだと２か月切るぐらいで頂けるのではと考えております。栗原さんの所でお世話になるつもりですので、どうか宜しくお願い致します。覚醒剤をやめたいという気持ちは凄くあります。1人で居るとダメだと、今回は本当に分かりました。ダルクの力を借りないと、また同じことの繰り返しだと思うのです。残刑もあと少し、事故のない様に頑張って行こうと思います。

（北海道　H・A）

脳の革命の重要性に気づいてほしい

皆様、体調を崩さず元気でお過ごしでしょうか。私は毎日、元気で頑張っています。そちらに行ったら、いろいろとお世話になると思いますが、手紙で失礼ながら少し私の考えを聞いてください。言うまでもない事ですが、人はそれぞれ異なる人格を持つ存在です。当然ながら潮騒の皆様も例外なく違う存在ですが、全体としてはうまく調和して潮騒 JTC という施設を運営しているのだと思います。

でも、お互い個性が違うからこそ、そこに最高の価値観が形成されるのだと私は考えます。桜は桜の木で、梅は梅の木で個性があり、絶対に桜は梅の木にはなれません。個々に違っても大地の栄養を吸い上げて、個々の個性が見事に成り立っています。（異なる個性が全体として調和する自然の姿は）本当に素晴らしいことで、（自然の一部である）人間も同じだと思います。

お互い悩んでいる病気（依存症）に対し、傷をなめ合うように同情し合うのではなく、共感し合いながら豊かなハーモニーの相互作用を引き起こし、それぞれの気持ちが集合して、（依存症の回復のカギを握る）「今日一日」の満足が得られるのだと思います。それだけに相互のコミュニケーションが重要なわけです。

（ここからは持論になりますが）私が思うに、脳の記憶は再生し、感情に何らかの刺激を与えると思います。ですから何が何でも脳の革命が必要になります。この脳の革命が見事に達成されれば、完全に（依存症は）治ると確信致します。そして生きがいが出て来ると思うのです。それにはまず潮騒の皆様との共感の中に、脳の革命を入れていった方がよいと思います。さまざまな段階を踏んでいきながら、本格的な人材を入れてみることも良い方法だと思います。

まずは（これについての）実践が必要だと思いますので、出所してからいろいろと私の考えを聞いてください。私も素直にそちらのやり方に順応しながら、実践を積み重ねて行く中で、私の提唱する脳の革命の重要性に気づいていただけると確信しております。皆様と討論しながら、よい方向に進んでいけたらと思います。　（神奈川県　O・H）

今回が人生やり直しの最後のチャンス

すっかり秋めいた季節になりました。私は当所において社会復帰に向けて精一杯務めております。12 月には満期出所となりますが、出所後は潮騒でお世話になることは私の中では、はっきりとした決定事項です。ただ、どうしても避けられない私的な野暮用があり、1〜2 日の時間的な猶予を頂きたく思います。用事が終わり次第、電話連絡をして潮騒 JTC に向かいます。もし、それが難しい場合は後日時間を頂きたいので、それについてはご相談させてください。

とにかく私は、今回が人生やり直しのラストチャンスだと考えています。潮騒でお世話になる日が、新たな人生のスタートラインに立つ日と決めています。薬物依存から立ち直り、一日でも早く普通の生活が送れるように一生懸命頑張りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

（秋田県　S・M）

刑務所とはもう縁を切り社会で頑張っていく決意

この前出した時は新入工場でしたが、今は一般工場で作業しております。昨年のミーティングノートが手元に有り、それを見て勉強していた時の事を思い浮かべています。キクさんのハガキにも書いて有りましたが、クスリは止めようと思っていても刑務所の中にいる時は買えないし、酒も飲めないので大丈夫と言っていますが、社会に復帰したら酒は買えるしクスリもその気があれば入手できます。この中にいるより早く社会復帰して、皆の所で自分にパワーを貰えるように勉強して行こうと思っています。そして、刑務所とはもう縁を切り、社会で頑張って行こうと思います。今現在、父親を身元引受人にしてありますが、もしダメなときは栗原さんになってもらおうと思っていますので、その時は宜しくお願いします。

（福島県　A・M）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

10月のお題　**薄（すすき）**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.12

センター長　栗原 豊

産みの苦しみを経ながらも、就労支援を柱にした施設運営に方針を明確化し、施設名を変えて再出発した潮騒ジョブトレーニングセンター。前回述べたように、秋元病院からのアルコール依存の入寮者が増えるに従い、依存症回復施設としての陣容が充実していった。施設責任者の私も入寮者へのケアと同時に、対外交渉などで忙しく動き回る日が多くなった。このため、神栖俳句会に参加する機会はますます減ったが、忙しくなればなるほど頑張って投句は続けた。それに年に1回発行する同会の句集に私の秀作が掲載されることで、足は遠のいても句会への帰属意識は維持され、作品が活字になることで「自分が社会で認められている」という承認欲求が満たされていた。仲間たちの反応はともかく、数少ない社会の熱心な読者からは評価された。

当時は落ち着いて俳句作りに励んだり、時間を確保してきちんとした句作ができない状況にあったが、私は俳句の素材やヒントをメモするための専用のノートとペンだけは常時携帯した。そうして各地のダルクフォーラムなどの際には、車窓から見える景色をヒントに心象風景を綴った俳句をものにした。旅の句が増え始めたのもその頃からだ。不思議なもので俳句作りは日常目にする物事への興味や関心を喚起させ、言葉に対する鋭敏な感覚を研ぎ澄ませてくれた。

それに地域の景観も違って見えた。田植えや稲刈りなど四季折々の変化や、見慣れた日常風景の小さな変化にも気をとめるようになった。例えば、鹿嶋に住む恩恵として鹿島灘の水平線に登る朝日や、遠く筑波山を望む北浦の夕焼けに幸福感を覚え、水面にきらめく輝きに素直に感動したりした。加齢で鈍くなるはずの感性が俳句作りによって逆に豊になり、目に見えるちょっとした変化にさえ句心を揺さぶられた。

このように目には見えないが、俳句作りは施設運営にも好結果をもたらしていた。施設づくりが面白くなり、少しずつ精神的な余裕を生まれていった。アルコールの年配者が増えてきたこともあって、この恩恵を年配入寮者にも分かち合えることはできないだろうか、と真剣考え始めた。というのも、新たに潮騒につながってくるアルコール依存の入寮者たちは、それまで主流だった若手の薬物依存の入寮者と異なり、比較的社会経験も常識もあり、何よりも4、50代まで社会で働いてきた経歴を持っている。きっかけがもてれば俳句を身近にできるのでは？ との直観が働いた。

（次号につづく）

特選句

一叢や風とダンスの花薄

鬼

一叢は一株のことでもあり、花芒の株が風にゆるく強くゆれるのは少し離れて見ているとダンスを踊る様でもある。また薄の原などを吹く風には何か描く様にも見えます。何れにしても草や木、花にも心を通わすと詩や句も生まれます。現代的で面白い句です。

特選句

定まらぬ風の流れや薄原

ユタカ

この鹿島辺りでも大きな薄原は少なくなりましたが、それでも筑波山の裾野などに行くと薄野が広がる。夏は青く、初秋には薄赤い穂、冬には枯れ尾花となるが、そこを吹く風は東西南北、日に時に変わる。その風に吹かれながら薄野を眺めるのも風趣があり、風の行方に人生も重ねて思う句です。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

今月の秀逸句

秀逸句

危ないよ薄の葉はねと母言いし

しま

薄の葉の縁にはギザギザがありうかつに触れると手を切る。子供の頃には何度か経験したものである。母はそれを知っていて、月見の薄を取りに行くときなどは注意してくれた。「母言いし」にその母をも偲ぶ切たる句でもあります。

秀逸句

ふくろうに似たる姿や薄の穂

おの

薄の穂も赤い花の頃を過ぎて穂綿の頃になり風も無く夕暮に膨らんだ穂は、梟（ふくろう）が夜を待つ様でもあり面白い発想の句です。近頃はホーホーと鳴く声も聞かないが故郷の夜を思います。

秀逸句

夕風と薄を供の散歩道

カート

まだ日暮れには間のある利根の堤防や鹿島神宮の裏道などは風に靡く薄を見ながらの散歩に良い。まだ昼は暑いが夕風に涼みながら花芒を愛でるのも散歩の醍醐味と思う句です。

秀逸句

すすきの穂とんぼの群れがゆらしてる

ひろ

薄の穂が出る頃は赤蜻蛉など群れ飛ぶ日も多い。風の無い時はことに群れて如何にも秋を思う。穂に付いたり離れたりもし薄が少しゆれる様でもある可憐な哀憐の句です。

秀逸句

夕づつや烏と帰る薄原

あべ

童謡にも烏（からす）の歌がありますが昼間に田や畑水辺に餌さを求めた烏などは夕方山の塒（ねぐら）に帰る、人も畑仕事や釣りなどを終えて夕べの薄原の道を帰る、一抹の淋しいさを宿して里を思う句です。

秀逸句

花すすき飾りてみたき月夜かな

いるか

原句は少し変えましたが、これで月の出に思わず花芒でも飾り供えたいほど綺麗な月の詠になります。月に芒は古来からですが、月に似合う草花です。今では飾る人も少なくなりました。

佳作

あやめ
さらさらと月夜になびく薄かな

ちーな
花すすき月を見ながらお団子を

れいこ
山風に心細げな薄の穂

はな
秋の夜一人泣きたるすすき原

みく
穂薄の風に吹かるる何思ふ

かや
月明り心に映る芒かな

かっちゃん
薄原はしゃぎ廻るは兎かな

長吉
多摩川に家族で遊ぶ花芒

かつみ
十五夜の節句を飾る芒かな

コバ
城山や月に薄のよく似合ふ

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アディクトのユウです」 No.3

覚醒剤取締法違反で逮捕されたことをきっかけに、僕はついに施設（潮騒JTC）に入寮しました。しかし、事ここに至っても薬物に対して完全に白旗を上げた訳ではなかったのです。あれほど苦しい体験をしていながらも、「底つき」状態には至らず、薬物に対して無力を認め、自分が病気（依存症）だと認めるには時間が必要でした。「まだ大丈夫、仲間のようには壊れていない」「俺は自力で更生してみせる」と強がり、右も左も分からなかった僕は薬物の離脱症状を緊張感だけで乗り切り、数カ月を過ごしました。

そうして施設生活に慣れるにつれて、ミーティングやプログラム以外の時間は全て寝て過ごす、怠け者の人間になっていきました。アリバイ的な回復活動の取り組みが続き、よくある“施設ずれ”した人間になってしまうのかなあ、という漠然とした危惧が芽生え始めていました。そんな生活を1年近く続けている頃、ボランティアで作業をしていた仲間が休みの時に代役として作業に行くようになり、ひょんな形で僕の施設での作業プログラムが始まりました。土木作業や農作業の補助、便利屋的な単純作業ばかりでしたが、過去に取得した重機操作の資格が生き、こんな僕でも世間の役にたっているのかな、という気持ちが生まれていました。

当初は、作業をしながらも「シラフでいることの意味ってなんだろう？」とか、「給料も出ないのになんでこんな事をやっているんだろう？」「施設にうまくこき使われているだけじゃないか…」などの疑念が消えませんでした。でも、仲間たちと一緒に日々新しい体験を無心で続けていると、不思議なことに自然に体も動くし、薬物を使わないでいられる時間が増えていったのです。「そうか、これが回復の意味なんだ！」。これこそ理屈じゃない、体の内側から湧き出るスピリチュアルな目覚めでした。

今、僕は施設に繋がって３年と９カ月となりました。潮騒作業隊（農業隊）の一員として今日まで施設生活を続けてこられているのは、僕を受け入れてくれている仲間のおかげだと思っています。これからも作業プログラムを通じて、焦らずに仲間の助けをもらいながら、日々の回復に努め、少しずつ成長していけたらいいなぁと考えています。（終わり）

「潮騒通信」読者からの反応と意見 ～白田美鶴さん（茨城町在住）から貴重な提言

「個人的に回復を目指す人のバイブルにもなってほしい」

潮騒通信の作成と編集は大変だと思いますが、それが届くのを心待ちにしている多くの人がいます。特に受刑の身にある人たちには尚更だと思いますので、今後もお励み頂ければと思います。今回の情報（潮騒通信９月号）ではルミさんを中心に女性の単独施設ができたということですが、大変よかったと思います。男女共同だと、様々な面で不都合が起こるからです。また、施設の機能は良い面もあると同時に、悪い面もあると思います。共同住まいや共同作業が苦手なタイプの人も居るからです。共同施設は共同生活に耐えられる人にはよいですが、共同生活や共同活動に付いていけない人や、苦手な人には難しい環境です。そのようなタイプは少数派かもしれませんが、そのような人々の救済も必要です。そこに施設というものの難しさと問題があるように思います。

潮騒通信の内容についてですが、ハイライト面ばかりを集めて作成しがちですが、回復を志す人々のミーティング内容（最も関心があり、知りたいメイン）をもう少し踏み込んで、具体的に伝える工夫も必要な気がします。また、潮騒通信を読んで、回復のプログラムを個人的にやりたい人々にも、そのバイブル（手本）となるような言葉や具体例を掲載していくのも有効ではないかと思います。今の潮騒通信ではイベント（ハイライト）に通信のウエイトが掛かりぎみな気がしています。

回復のノウハウやミーティングの内容、入寮者の今の気持ちや取り組む思い、入寮者が今後をどう考え、あるいは施設をどう見ているかを載せる（一部その取り組みも掲載されているが）ことや、センター長の案内でのカウンセリングの様子を伝えたり、そこから見えてくる問題や課題や、地域などへの働き掛けを伝えていくことも必要かと考えます。当事者だけでなく、関係者や一般の人々にも分かるように伝えることも、潮騒通信の大きな役割のように思います。入寮者の毎日は、一般人以上に辛く、厳しいことと思いますが、少しでも回復に近づくことを願い、また寮外にある当事者をも救済できる潮騒通信となることを、私は願っています。これからもご自愛されまして、重責を果たされますようにお祈り申し上げます。

※今月は編集後記に代えて、読者の意見を掲載しました。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年10月21日発行　SSKU増刊通巻、第4949号

10月の行事予定

- 18日　秋元病院メッセージ
- 18日　しまナーシングホーム（水戸市）エイサー慰問
- 21日　光岡　進　生前葬
- 22日　世田谷区砧地区民生児童委員施設見学
- 23日　世田谷区烏山地区民生児童委員施設見学
- 23・30日　しおさいR・Dプログラム
- 26日　神栖市芸術祭参加　和太鼓・エイサー演舞
- 28日　特養ホーム「大野の郷」（鹿嶋市）エイサー慰問
- 30日　鹿嶋市平井公民館　エイサー演舞
- 31日　赤い羽根共同募金会フォーラム参加

11月の行事予定

- 1日　横浜ダルク　応援エイサー活動
- 2日　2014年・第24回鹿嶋まつり参加（模擬店）
- 8日　京都ダルク11周年フォーラム
- 9日　秋元病院メッセージ
- 6・13日　しおさいR・Dプログラム
- 16日　鹿嶋市高松公民館　エイサー演舞
- 21日　びわこダルクフォーラム
- 24日　岐阜ダルク10周年フォーラム
- 30日　広島ダルク5周年フォーラム

献金を頂いた方（10月15日現在）

渡辺 洋子 様、小岩井商事 様、
匿名の方

献品を頂いた方（10月15日現在）

新宿とまり木 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品･献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封　させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

10月のバースデイ

かっちゃん

なんとなく2年になりそう。
いつまで続くのかな？

とり

短いようで長い一年でした。

つとむ

年はとりたくないです。

潮騒通信　どっこい生きてます！ 2014年10月号

Contents

P❷ 文豪・吉川英治の「我以外皆我師也」を肝に銘じて

P❸ 潮騒和太鼓隊 初舞台　神栖市芸術祭参加イベント

P❻ 潮騒ファイザープロジェクト 就労支援実践講座
孤高の書家、北村馬骨さんに“老いの流儀”を学ぶ

P❼ 潮騒定食「おらげのかまど」11月11日に開店予定！

P❽ 世田谷区民生・児童委員60人が研修来訪

P❾ 持病の腰痛を忘れるエイサー演舞で達成感

P❿ 受刑者からの手紙

P⓬ しおさい俳壇　10月「薄（すすき）」

P⓮ どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～「アディクトのユウです」

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39
E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/